

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
82	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Ten-year incidence of age-related maculopathy and smoking and drinking The Beaver Dam Eye Study 年齢に関連した10年間の網膜症発症率と喫煙・飲酒 Beaver Dam 眼研究	
<b>執筆者</b>	
Ronald Klein, Barbara EK Klein, Sandra C Tomany, et al.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
American Journal of Epidemiology 156:589-598, 2002.	
<b>キーワード</b>	
飲酒、発症率、網膜変性、集団、危険因子、喫煙	
<b>要旨</b>	
<p>この研究は、喫煙・飲酒が年齢と関連する網膜症の発症率とどのような関連を有するかについて、米国の Beaver Dam 眼研究の 43-86 歳 3,684 人の 1988-1990 年から 10 年間の追跡調査により検討したものである。眼底所見は眼底写真によって判定された。年齢、性、その他の要因を調整して、喫煙の網膜症発症との関連を検討すると、喫煙は 250 <math>\mu</math>m 以上の直径を有する白斑、および点状色素斑異常、早期年齢網膜症の発症リスクであった。喫煙は後期年齢網膜症の危険因子ではなかった。多量飲酒者（1日4杯以上の飲酒者）は、後期年齢網膜症発症の危険因子であった。もともと、多量飲酒者およびその発症頻度は多くはなかった。</p>	